

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 端山園	代表者	山内 幸雄	法人・ 事業所 の特徴	開設して1年。豊國神社の境内の一角に位置し、自然に囲まれた閑静な環境となっている。「住み慣れた地域で、いつまでも‘ありがたい自分’で暮らしていける」ことを目指し日常の支援を行っている。
事業所名	地域密着型ケアセンタ ー いまくまの	管理者	伊東 典子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	1人	4人	1人	人	7人	人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の中に氏名の明記があることで、全員で行うことができていると確認できる。全員が揃うことは難しいが、欠席する職員には事前に意見を聞いて反映できると感じられる。 情報の共有という面について、意見を聞くのみではなく、共有システムを考える必要性もあるのではなか…紙媒体や確認のサインなど… 	<ul style="list-style-type: none"> 業務連絡ノートや申し送りノートへの確認印やサインはしているが、全員というわけではない。各自確認印を押していけるように氏名の明記と下段に押印欄を作成し、確認次第押印していく形で様子を見ていく。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> 初めての時はどのように声をかけて入ったらいいかわからなかったが、入ってみるとすぐに受付があるので問題なかった。 特に臭いは感じないが、タイミングもあると思う。まだ新しい建物ということもある。 家族としては勝手がわかっている入りやすい。簡単に入れ過ぎても心配になるし、現在は調度良いのではないか。 表玄関にベンチがあることで、一服できて助かる インテリアに手を取られたり気を取られたりして大事なことが疎かになるよりは、これくらいでシンプルで良いと思われる。衛生的に感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生的な雰囲気を損ねないように季節の設えや飾り等の充実を図る。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶はできているしお茶も出してくれている。 ・ 工夫して様々な地域の行事に参加しようとしていること、また、参加していることは良いことだと思う。 ・ いまくまのについて、関係機関や専門職はよく知っていて興味津々です。ただ、一般的に認知されているかと言われるとわからないが… ・ 学区内でも立地的に知らない人も多い。 ・ 毎月、何かしらの行事や催しがあることが多い。2ヶ月に1回でも地域のすこやか教室やその他の集まりに参加してPRしてみてもどうか。日々の生活の様子を伝えたり、写真を掲載した広報誌等を作成してみてもいいのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すこやか教室等、地域で行われている集まりへの積極的な参加を図る。事前に予定として組むことで職員の確保を行う。 ・ いまくまのにて2ヶ月毎に開催している催し物について、周知を図れるように2週間～3週間前にはチラシを配布できるように努める。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で困っている人の受け入れに尽力しているのがわかる。 ・ 皆さん高齢で認知症もあるし、そんなに頻繁に外出しなくてもいいのではないかな。閉じこもっているわけではないと思うので。施設内でも充実していると感じている。 ・ 専門的な視点から相談ののつてもらえると助かります。 ・ 違う視点からのアドバイスがありがたい。 ・ 催しよりも24時間をしっかりと支えてほしい。 ・ 学区内においても様々な催し物を行っているの、それに少しでも参加していきアピールしていてもいいのではないかな。 ・ 家には少しでも来てもらえると助かる。家族だけではどうしても煮詰まってしまうので。違う視点から色々話してもらえるので参考になる。 ・ 平等に外出等は難しいでしょうし、「私だけ行けない」となったり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学区内で開催されている健康教室やサロンに参加していく。 ・ こまめな自宅訪問を行い、また、地域の方（民生委員の方や老人福祉委員の方、近隣の顔馴染みの方）の把握と関係性を構築していく。 ・ 一人一人のニーズの把握の掘り下げに努める。

			して大変だろうと思う。日常のケアに支障のないように、スタッフに無理のないように行ってもらえれば。	
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議内で報告される事故報告が丁寧。言い難いこともあるが、特に服薬等の事故についてしっかりと報告してくれている。 ・ 利用者や家族だけでなく、広く地域の人と関わっていくことは難しいことだと思う。 ・ 地域の方との取組や交流という面では、すこやかサロンやカフェへの定期的な参加を検討して行ってみたいかどうか。毎月が難しければ2ヶ月に1回等、定例として参加しアピールしていくとか… ・ 事例検討はこの場では非常に難しいと思う。 ・ 事故の報告等丁寧にしているが、改善に向けた対策を説明したり広く意見を聞き、自宅にいた時のことや自宅ではどのようにしているのか等を見ていくこともいいのではないか。 ・ 地域の催し物について、ある程度の年間予定がある為、その確認をしていき予定を立てていく等してみたいかどうか。 ・ 会議内容としては現在のままでいいのではないか。事業所内の状態をよく知ることができている。今後、必要に駆られればその時々のご案内で出していく形でいいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談ケースについての報告をしていってみてはどうか… ・ サロンやカフェへの定期的な参加 ・ サロンやカフェにおいて、3回に1回程度の頻度で、事業所で行っている行事（レクリエーション等含）や日々の生活について報告できる時間（10分程度）をいただき説明していく
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画を見たことはないのでも「わからない」としたが、会議内で答えてもらったので「はい」に変更してもいいのかなと思う。 ・ 計画については、こちら（運営委員会役員や参加者）が知っておく必要があるのか疑問を感じるが、今日の説明で知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災訓練への参加を目指す。 ・ 避難場所（広域と地域両方）を掲示し周知を図っていく。

			<ul style="list-style-type: none">• 食料の備蓄はありますか？⇒2 日分は確保できている。• 全国的に施設で防災の訓練はあるものですか？⇒年 2 回義務付けられている。• 雨等の水害は大丈夫だと思うが落雷が怖いかと思う。• 災害時の地域の人の受け入れはどうか。また、入浴などの要請が考えられるのではないか。⇒災害発生当初は困難であるが、ある程度ライフラインが復旧した時点からならあり得るかもしれない。	
--	--	--	--	--